男子個人戦

第一部（六十歳以上～六十五歳未満）

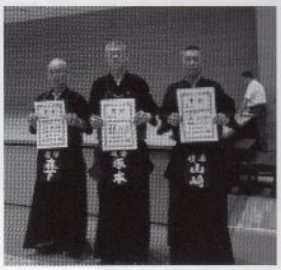
優　勝　田口　一輝（岐阜）
第二位　三好　史恭（可茂）
第三位　野村　敦志（飛騨）

第二部（六十五歳以上～七十歳未満）

優　勝　小栗　芳明（岐阜）
第二位　竹中　和春（西濃）
第三位　松本　幸隆（西濃）

第三部（七十歳以上）

優　勝　塚本　六美（東濃）
第二位　森下　真次（飛騨）
第三位　山崎　昌彦（飛騨）



女子個人戦

優　勝　成瀬有紀恵（可茂）
第二位　益田亜希子（岐阜）
第三位　足立　佳恵（岐阜）

少年剣道

◎パナソニック杯第二十回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

令和七年九月十四日、おおきにアリーナ舞洲において開催され、「準優勝」という結果を収めました。

監督　加藤　洋基（志道館学園）
選手　先鋒　加藤優志郎（志道館学園）
次鋒　加藤結乃愛（志道館学園）
中堅　片岡　陸人（さくら会）
副将　梅村　充（志道館学園）
大将　三宅　翔大（志道館学園）
控え　小野　莉一（さくら会）

～涙の準優勝～

厳しい選考会を突破した精鋭六名が岐阜県小学生選抜チームとして出場しました。選手の半数は、昨年度のメンバーで構成され、目標は、岐阜県小学生剣道史を塗り替える全国ベスト8以上でした。

予選リーグ初戦、優勝候補一角の地元大阪府選抜Bとの対戦は、戦前の予想どおり大接戦となりました。次鋒、大将の活躍により見事勝利を収めることができました。続く予選リーグ第二戦の新潟県選抜との対戦は、実力どおりの力を発揮して快勝し、三大会ぶりの決勝トーナメント進出となりました。

決勝トーナメント一回戦の北海道選抜との対戦を前に、プレッシャーを感じていたのは監督の私だけでした。選手は、伸び伸びとした試合展開で見事勝利し、全国ベスト8以上が確定しました。

続く準々決勝の兵庫県選抜戦と準決勝の静岡県選抜戦は、手に汗握る大接戦となりましたが、持ち前のチームワークと勝負強さを発揮して勝利し、決勝戦進出を決めました。決勝戦に臨むにあたり、キャプテンを中心に円陣が組まれ、逞しく成長した選手の姿を見て、涙腺が崩壊しそうでした。

決勝戦、勝利の女神は岐阜県選抜ではなく、大阪府選抜Aに微笑みましたが、剣道と真剣に向かい合い、志を貫いた選手は見事でした。彼らの今後の成長に期待します。

小学生選抜の指導に携わり早十年が